

令和2年度 宮崎県立宮崎商業高等学校 学校評価

【自己評価 4：充分目標達成できた 3：おおむね目標達成できた 2：目標達成できていない 1：全く目標達成できていない】

評価項目	具体的方策及び評価指標	年間自己評価 指標別総合	成果及び改善策	関係者 評価	評価及び具体的意見	
生徒が主体的に学ぶ姿勢の確立と 教職員の授業実践力向上の支援	授業と自宅学習を連携させて、自ら学び自ら考える力を身に付けさせ、学力の定着と向上	3	○文字力テストについては、次のテストへの注意する点を呼びかけたり、自宅学習(宅習)でしっかりと取り組ませたりと、課題へ継続的な取組や成長を促す指導が良好な成績を収めている背景にある。 ○定期考査前の宅習調査については、本年度からフォーサイト手帳を導入し、自己管理能力の育成を目指している観点から、いかに手帳を活用して自主的な学習に繋げるかが今後の課題である。 ○コロナ禍の影響もあり、講義型の授業に終始する場面も多くなった。「考えさせる力」をどのように醸成していけばよいのか、新しい学習指導のあり方をそれぞれの教科・科目で模索する必要がある。 ○定期考査前に学習委員会を開き、生徒中心に成績向上に対する取り組みが実施した。一方、成績不振になっている生徒の手立ての時間確保が難しい場面もあり、今後の対応の仕方を新たに提案していきたい。		○コロナ禍で、新たな取り組みが制限されたものと想像するが、「良好な成績を収めている」との自己評価から、学力の定着と向上に一定の成果があがったものと評価する。 ○授業中のわからない点など質問させるとよいと考える。手帳に記入するなど、教員による把握にもなる。 ○基礎学力向上のため取り組んでいると思う。	
	各教科による教材研究、研修会および公開授業・研究授業などを通して工夫改善を行いながら、授業及び教職員の資質向上	3	○検定試験については、自ら上位級取得を目指すよう促すためにも、学科の特色や3年間を通した受験計画や支援策、検定試験合格からつながる大学や就職についての情報をまとめた進路チャートなどの作成の検討が必要である。教師側の進路指導と生徒の進路目標を明確できると検定合格率や大学、就職合格率が上がると思われる。 ○評価の見える化については、次年度作成のシラバスとあわせて、各教科で新様式での作成に着手しているが、新しい学力観に基づいた評価について検討する時間が足りなかった。 ○公開授業を(10/27～11/13)で実施した。他教科の先生方の授業は非常に勉強になり、クラスの参観をすることで生徒の取り組む様子を知ることでもできた。	3	○評価目標に向けた取り組みにより、次のステップへの改善課題が明確化された模様であり、次年度での継続的な取り組みが期待される。 ○評価の見える化も必要であると同時に生徒の進路達成目標の見える化があるとうい。 ○検定試験への取組は、新聞紙面で宮商生が難易度の高い資格を取得した記事を目にするなどで、さすが県内有数の専門高校だと感心する。公開授業も素晴らしかった。	
	社会の負託に応える学校を目指したカリキュラムマネジメントの実現	3	○総合的な探究の時間を軸としたカリキュラムを構成していくためにも、 ①週1回以上は企画委員会を開く。 ②1年間分の指導計画及び教材を作成する。	○定例で総合的な探究の時間企画委員会を開催した。委員で協議し、毎時の指導案と教材を作成した。その学習指導計画は、学年会を通じて伝達したり、放課後に研修会を行ったりするなど、企画の意図を伝えられるように工夫を行った。今年度、土台ができたので、来年度へのペースができた。2学期のポスターセッションでは、1学期の学習内容を継承しながらクラスの枠を超えて発表ができ、色々な生徒の工夫が見れる機会があり良かった。		○本年度の取り組みに大きな手ごたえを得たようであり、次年度でのステップアップが期待される。 ○先生方のご努力がうかがえる。
学校情報の発信と 本校情報の積極的な推進	学校情報の発信	3	○毎週のホームページ掲載計画を作成し、週2回のペースで更新するよう努めた。 ①昨年度と同期間では約7%上昇させ、アップ1回あたり約1,000件の閲覧に繋がった。 ②専門委員会では、写真の掲載が難しい状態である。また、部活動の記事のアップに関しては、担当を決め、対応したい。 ③オンラインでの行事も計画されているため、専門委員会の生徒が活動をする内容が追加された。生徒会役員改選の際のオンラインは初めてであったが滞りなく実施できた。 ④全職員および生徒(部活動生)からもホームページへの書き込みが昨年度よりも増えた。内容にバリエーションがでるようになった。 ○HPのアップは、情報発信部だけでは限界があるため、他部署が行事の内容をアップするような方策を考える必要がある。		○数値目標には、若干、届かないが前向きな取り組みが着実に進展している。 ○閲覧件数が上昇しているのは、評価できる。	
	セキュリティポリシー	3	○情報漏洩0を目指す。 ○情報資産の管理体制を整える。 ○情報セキュリティを確保するために遵守すべき基準を設ける。	○情報漏洩0は達成できた。しかし、ID・PASSの管理の徹底を行う必要がある。(クラッシュ) ○情報漏洩に関しては、特に問題もなく管理出来ている。今後、オンラインの行事等も出てくる。この部分に関しては特に注意すべき点であり、全職員に情報セキュリティに関する意識を高める啓発が必要である。 ○オンラインでの行事が増え、ネットワークの負荷も増えてきている。学年一斉にPCを使う際などの取り決めをすることで、ネットワークの負荷を減らせると思われる。 ○職員のコンプライアンスにおいて、個人情報が入っているファイルにパスワードをかけることを再確認する必要がある。情報漏洩防止について、最新情報を職員に配信しながら、規範意識を高め取り組んでいきたい。 ○専門委員の活動が、校内リモート配信に重点を置いたため、今後は情報配信にも取り組む。	3	○情報漏洩が「0」であったことは高く評価すべきである。 ○個人情報保護にはヒューマンエラーを排除できる体系的な対応を検討すべきと思われる。 ○校内リモート配信など、新規取り組みは大変だったと拝察する。
	教育の情報化の推進	3	○コンピュータネットワーク環境の利用推進と維持管理を図る。 ○情報機器設備と教育用ソフトの充実を図り、全ての授業でICTを活用できる環境づくりを目指す。	○情報主催のGIGAスクール研修会などを行ったが、参加者ももっと増えるように工夫したい。 ○G Suite for Education 等の活用事例などを紹介していきたい。 ○生徒会立会演説会・久遠祭と動画配信の機会があったが、機材が不十分であったので、今後充実させていきたい。 ○タブレットPCの活用が増えてきており、ネットワーク環境に関する管理が必要になってくるため、使用についての注意事項等を決めていく必要がある。 ○校内でのストリーミング配信が可能になる可能性があるため、実証実験を行い、安定した配信が出来る環境の構築を行う必要がある。また、専門委員会を使い、機材の準備がスムーズに行えるような準備しておく必要がある。		○取り組みが進捗する中で、改善課題が明確化されており、今後のステップアップが期待できる。 ○今後の情勢に合わせ今後も情報発信を行っていただきたい。
社会人として必要とされる人間の育成	じりつ(自立、自律)した行動や考え方をを持った人間の育成	3	○他者へ対して心ある対応がとれるような「心の育成」が特に必要である。 ○クラス活動においては、今何をすべきなのかを主体的に考え自分の行動に責任を持って取り組むよう指導した。生徒たちの動きも良くなった。 ○各行事において責任感、使命感を持って取り組めた。 ○専門委員会は、専門委員長や生徒会役員を中心に会を進めさせるようにした。 ○正しく判断して行動するには「自律」が必要であるが、まだまだ自分に対して甘い生徒もいる。定期的に通信を配布するなどの手立てを考える必要がある。 ○校内研修や日常的な生活指導などを通して、自立するための基礎となるような行動規範を身につけさせることが大切であると考え、学校生活の指導を行ってきた。学年が上がるにつれ、自主的・主体的な行動ができるようになるための基礎を第1学年に身につけさせることに取り組んできた。		○自立、自律を意識させる育成指導が成果に繋がっている。 ○宮商生に対して持つ安心感は、授業やクラス活動、部活動を通して「心の育成」に力を入れておられるからだと感じる。	
	マナーや礼儀を身につけた人間の育成	3	○あいさつや身だしなみは、日常的に指導してきた。 ○マスクで口元が隠れているため、目元の表情で挨拶を表現したり、会釈での挨拶で対応したりするなど工夫しながら挨拶を行っていた。 ○2学期に「スマートフォン・携帯電話の校内持込許可」が始まった。全校生徒に対して一斉に説明を行った。ルールや約束を守らせて、より安心安全な学校生活を送っていただけるように指導・支援していきたい。 ○場を踏まえた行動が出来るように、授業を始め様々な場面で指導した。 ○第1学年の校内研修や、平素の授業、学校生活等においてあいさつの徹底や、マナーなどを遵守することを行ってきた。今後、心を込めた中身のあるあいさつができるように指導していきたい。	3	○あいさつと身だしなみを日々指導することは、極めて有益な育成指導であると思われる。 ○部活動時に大淀川河川敷を散歩中、よく運動部員が挨拶をしてくれる。 ○生徒の挨拶、表情の豊かさに好感が持てる。スマートフォン等の校内持ち込み許可に関しても、ルールを守り活用してけると期待する。	
	人格の育成	3	○基本的な生活習慣の確立を図り、品格を身につけた人づくり。 ○学校行事やホームルーム活動を通して、協調性・責任感を身につけた人づくり。 ○部活動を通して人格を磨き、より質の高い実践力を身につけた人づくり。	○部活動は大会が再開されるようになり、生徒の活気が見られるようになった。 ○クラスでの様々な活動を通して、自分がクラスの一員であるという自覚を持たせるよう努めた。 ○学校行事において、リーダーを中心として、全員で一つのことに取り組ませた。リーダーシップを取れる生徒の育成をしていきたい。 ○コロナの収束が見えない中、行事を通して身につけていた部分をどう補っていくかを考える必要がある。 ○部活動の加入率をあげることや、部活動生集会を通して部活動の意義等について話をしてきた。人格を育成することは、学校の教育活動全般において行われるべき事であると認識し、生徒の見本になれるように配慮して行動したい。		○コロナ禍で困難な状況が続いたと思われるが一定の成果があがっていることに安堵した。 ○部活動などの活躍が地域住民として誇らしい。常に練習風景を目にしており、日頃の成果を生んでいる。 ○コロナ禍の中、行事でつけるべき力をどう補っていくかを考える必要があるという事に深く共感する。この世代ならではの価値観を持った生徒になると感じるが、悪いことばかりではないとも思う。

評価項目	具体的方策及び評価指標	年間自己評価		成果及び改善策	関係者評価	評価及び具体的意見
		指標別	総合			
発達 の段階に合わせたキャリア教育の推進	進路情報の効果的な提供	○早期離職者の10%減少 ○国公立大学合格率の5%上昇 ○進路ガイダンスの充実	3	○早期離職者の10%減少については、具体的なアクションプランを検討する必要がある。 ○オープンキャンパスなどの進路情報はクラス掲示や進路資料室に閲覧できる形で配置した。 ○小論文の情報を次年度に引き継ぐために、四年制大学受験者に問題と再現小論文を提出させた。 ○進路情報を担任と進路指導部担当の先生と共有でき、受験の手立てができた。 ○1、2年生を対象にしたオンラインのガイダンスができると、早めの進路選択につながると思われる。 ○オンライン入試やオンライン事前説明会など適切に対応できた。 ○1学期と比較して進路資料室の利用者は増えている。 ○オンラインガイダンスは1学期に実施することができた。来年度は3年だけでなく、1年・2年も積極的に参加できる体制を検討したい。 ○受験先決定の共有化については、各学年会に提供できるように一覧表を作成する。		○コロナ禍で、進学、就職ともに特殊な困難を伴う指導となったと想像する。今年度の活動で明確化された課題の改善に向けた、次年度の取り組みが期待される。 ○オンラインの活用ができたことは、すばらしいと思う。来年度はもっと活用できるようIT企業などにも協力を求めてはどうか。 ○進路相談室・進路閲覧室は評議員もぜひ見学させていただきたいと思った。評価・具体的意見を出すためにも興味のある分野である。
	進路指導の効率化・組織化(全職員が進路指導できる体制づくり)	○指導体制の構築のために研修会を実施 ○効果的指導法の充実 ○進路課外の効率化	3	○進路模試の活用による学びのPDCAサイクルの充実を図る。 ○小論文(夏季・9月)を計画し実施した。19回実施でき、17テーマの社会問題について学習させることができた。テーマ解説・添削に多くの先生方の協力が得られた。 ○先生方が小論文の個別指導や面接、就職指導にかかわっていただき組織として機能していた。 ○全職員が組織的に進路指導に関わっている。しかし、一部の先生に負担がかかっている現状もある。 ○外部講師による小論文研修会は、内容が分かりやすく適切だった。 ○SPI試験の対策を強化する必要がある。 ○1年次からの進路目標設定と、必要な検定や外部活動への取り組みのチャート表を作成する。	3	○進路指導の効率化・組織化に向けて、大きく前進している印象を受ける。 ○一部教員の負担を今後クリアする必要がある。オンラインによる指導がその解決になるかもしれないし、逆に負担増になるかもしれない。 ○小論文課外の実施実績、外部講師活用とうまく機能されていたのが良いと思う。就職指導や進路(企業)選択のミスマッチを防ぐ取り組みを今後も続けてほしい。
	進路学習の体系化(キャリア教育的視点に立った3年間の進路学習)	○キャリアパスポートの実施による系統立てた進路指導の実現 ○外部講師の活用10%増	3	○進路指導部主任が3学年会に参加し、連携がしっかり取れている。 ○ポートフォリオの活用ができていない。クラスは活用の習慣化がなされていない。 ○初めてのオンライン入試を経験したが、主任を中心に担任の先生と連携し手際よく遂行された。 ○2学期はキャリアパスポートの活用があまりできていなかった。各学年と連携して、通年でキャリア教育ができると、1・2年の進路意識の向上に繋がると考える。 ○本年度日程や書式変更など多くの変更点に対応できた。		○進路学習の体系化に向けて、課題が明確化されつつある印象。改善に向けた、次年度の取り組みが期待される。 ○キャリアパスポートとポートフォリオ、クラスミーを学校評議員も拝見してみたい。
創 造 的 な 健 康 な 生 活 が 主 体 的 成 成	生徒一人一人が健康の重要性を十分に理解し、望ましい健康生活を実践できる指導・支援	○定期健康診断の受診率100%を目指す。また、健康診断後の要精密者のうち、内科・心臓検診、検尿の受診率80%、歯科の受診率45%を目指す。 ○感染症罹患状況	3	○健康診断後の要精密者の受診率について、心臓検診以外は目標を達成できなかった。今後も疾病治療の大切さを繰り返し指導していきたい。 ○生活習慣と健康調査の結果を活用し、個別指導の徹底ができた。 ○新型コロナウイルス感染防止対策による休校の影響で、健康診断を2学期に日程を変更することが多かったが、円滑に実施することができた。 ○感染症対策に伴う毎朝の検温について、classiの活用やフオーサイト手帳への記入を指導し、生徒の意識を高めることができた。 ○今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、日々の手洗いとうがいや消毒についてを生徒に指導する場面が多かった。 ○感染症等にかからないようにするために、久遠祭で保健委員会の発表として、手洗い動画を作成し、感染予防の周知を図った。 ○年度初めのコロナに対する注意の意識は、世の中の流れと共に薄れていく時期があり、マスクの着用や毎朝の検温なども不完全な形になる場合もあった。		○着実な取組が進んでいると評価できる。高校生に要精密検査の重要性を理解させるのは難しいと思われるが、100%達成に向けた粘り強い取り組みを期待する。 ○コロナ禍の中、しっかり行われている。 ○新型コロナウイルス感染防止対策で、これまでにない取り組みと周知活動に大変だったと思う。
	学校保健・安全の充実を図り、積極的な健康・体力の保持増進	○事故発生時における救護活動状況 ○年間保健指導計画に基づいた保健教育の実施状況	3	○大きな事故はなかったが、熱中症など発生したときには救急連絡体制に基づき適切な対応をとることができた。 ○体育大会では3密回避のため、短いプログラムとした。また、熱中症の生徒はほとんどいなかった。体育科の先生方の指導や生徒の頑張りにより滞りなく体育大会を行うことが出来た。 ○学校保健委員会を開催し、本校生徒の健康状態の実態や課題、改善について協議し、有意義な会となった。また、感染症対策について学校医から貴重な指導助言をいただいたので、今後の指導に生かしたい。	3	○無事故で安全であることが当たり前と見られがちで、大変な分野であるが、前向きに取り組む姿勢を高く評価したい。 ○コロナ禍での体育大会実施に、ご関係者一同尽力された様子がうかがえる。
	悩みを抱えた生徒に対し、担任や教育相談部等と連携を図り支援	○保健室における相談活動状況 ○教育相談部会への参加 ○関係職員との連携状況	3	○2学期に1・2年生を対象に生活習慣調査を実施し、心身の不調を訴える生徒を個別に呼んで話を聞いた。心配な生徒については担任や相談部と情報を共有し、支援を行った。 ○授業の際などに生徒の様子の変化などがあつた際には、担任や関係職員に話を聞いたりする事ができ、生徒の心情を理解しながら寄り添った指導を行うことができた。		○難しく、成果が上がり辛い取組であるが、極めて重要であり引き続き尽力して頂きたい。 ○今後も継続してケアしていただければと思う。
心 を 磨 き 、 命 を 守 る 自 主 活 動	環境美化について意識の高揚を図った校内の美化活動	○チャイムと同時に清掃開始の徹底 ○清掃時間いっぱい清掃活動 ○ゴミの持ち帰りの徹底 ○ゴミ分別を徹底	3	○トイレを清潔に保つための取組として新たに「ポスター」を作成し、すべてのトイレ入り口に掲示した。 ○清掃開始のチャイムと同時に清掃に取りかかることを目標にしていたが、全校で達成することはできなかった。 ○時間いっぱい清掃活動に関しては、1学期と比べると改善したが、徹底には至っていない。今後も清掃指導の強化と声かけを行っていききたい。 ○先生方の指導により、良い学習環境を保つことができており、自主的に活動する生徒を育成したい。チャイムと同時に開始し、片付けまでしっかりと行わせた。 ○清掃終了時にミーティングを行っているが、2学期から翌日の清掃内容を指示することとした。清掃開始時の取りかかりが改善されてきているように感じられる。		○地道な取り組みが成果に繋がっている。 ○前向きな取り組みが継続されることが期待される。 ○自主的活動するためには、生徒自身に清掃強化するための方法を考えさせることも必要と思う。
	美化委員会、園芸委員会および各清掃場所担当者の自主的活性化	○気づきのある清掃の促進 ○年5回の清掃強化週間の実施 ○春と秋のHR花壇の整備	3	○清掃強化週間を2回実施し、各清掃リーダーと環境美化委員で協力しながら清掃に対する意識の高揚を図ることができた。 ○清掃リーダーを中心とした清掃場所の雰囲気づくりができており場所が増えてきた。清掃終了後の反省会を行っている清掃場所もある。生徒自身が気づいて動くように声かけを行っていききたい。 ○11月には、園芸係による、クラス花壇の整備を行った。クラスによって整備状況に差がある。クラス花壇である意識を各クラスに持たせ、整備を続けていききたい。 ○園芸委員によるHR花壇は、クラスにより多少違いはあるが概ねよく活動できたと考える。今後、花の手入れを巡回指導したい。	3	○コロナ禍で様々な制約がある中、地道な取組が成果に繋がっている。 ○大淀川に隣接し、防災意識の向上は不可欠である。 ○ゴミ分別や整理整頓は、家庭教育や学校教育により個人差が大きい。今後も継続して指導に取り組んでいただきたい。 ○宮崎は「宮崎花旅365」など、花で観光客を誘致することに力を入れていることを知れば、地元に対する知識も増えると思う。
	防災意識の高揚と防災の実践力育成	○年1回の防災訓練の実施 ○防災マニュアルの見直し ○地域の避難場所としての地域住民との連携	3	○感染症拡大の関係で避難訓練は行えなかったが、防災に関して、生徒とその保護者がともに考える機会があった。自分の命を守るための備えだけでなく避難経路や身近に潜む危険について意識させることができた。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止のため避難訓練を実施することができなかったが、8月末に防災学習を行うことができた。また、自宅学習として、大雨や台風時の防災や避難について家族で考える取組ができた。 ○コロナ禍で全体的な避難訓練ができない中、各クラスで防災学習を行い、避難経路の確認まで実施できたことはとてもよい取組であった。ワークシートによる学習は、家庭や地域生活での防災意識の高揚に役立っていると考え。今後できれば外部指導者による防災研修を受講したい。		○コロナ禍で様々な制約があつたものと推測するが、地道な取り組みが成果に繋がっている。 ○コロナ禍でも防災について学習できることの代替案をきちんと実行されていると思う。



評価項目	具体的方策及び評価指標	年間自己評価		成果及び改善策	関係者評価	評価及び具体的意見
		指標別	総合			
活発な図書館利用を促進し、読書の質を向上させる	本との「出会い」の機会を提供し、自立的な読書の習慣、幅広いものの見方や考え方を身につけ、「感性」を育むよう支援、指導	○年間貸し出し冊数 生徒一人平均4.5冊	2	○貸出平均冊数は、目標を下回っているが、前の数値と比較するとわずかに下回る値であることから、コロナ禍による休校と、図書館司書の不在が要因として考えられる。 ○休みやテスト明けに本を準備できていない生徒が時々見られる。専門委員会で各クラスの委員を通して、生徒の呼びかけ等を強化したい。 ○コロナ感染拡大による行事の中止や校内行事、考査日程の変更により、予定したことが実施できなかった。 ○ビブリオバトルは、コロナ禍により中止になった。代わりに、ラジオ番組で実施のビブリオバトルに生徒代表を参加させた。 ○POPコンテストは、コロナ禍による2学期の行事変更を受け、国語の授業計画に組み込むことができず、実施しなかった。代わりに、推薦する図書を短文で紹介する県立図書館主催「わたしのすすめるこの一冊」に応募し、2名が入賞した。	3	○コロナ禍で制約が多い中で、しっかりと取り組んでいる印象を受ける。 ○様々な取り組みがなされていると思う。 ○図書の短文での紹介は非常に良い。読書については、1000~2000文字で感想を書かせても良いと思う。 ○貸し出し冊数の平均4.5冊はかなり高い目標の中朝の10分間読書などで皆に機会を与える取り組みを継続されているのはいいことだと思う。
	進路実現のための図書館活用を推進し、必要な情報を入手できる情報活用能力の育成	○進路選択や小論文指導に役立つ図書資料の購入	2	○進路に特化した書架コーナーは、例年のままの設置であり、更新が今後必要になる。 ○小論文指導用に定期購入している「今解き教室」の利用が多かった。 ○図書部の国語科職員を中心に準備している「10分NEWS」は、計画通り実施でき、小論文や面接試験への対策の一助となった。 ○「10分NEWS」は、2年生も3学期からの実施を目指したい。 ○今年度は特に、1・2年で開始された探究に関する図書の充実を図った。また、「総合的な探究の時間」の指導のための図書資料を購入したり、生徒の研究資料として、県立図書館のマイラインを利用したりした。 ○「総合的な探究の時間」での図書館の利用がしやすくなるように、タブレットのある環境が望ましい。		○コロナ禍で制約が多い中で、着実に成果が上がっている。 ○コロナ禍でのタブレットの活用は多方面に及ぶと考えられ、今後の充実が望まれる。 ○しっかりと方策があり、成果も出ているように思う。
	良書の選定や蔵書の点検整備に努め、学習や学校活動に活用できる図書資料の充実	○図書選定会議の定期開催 ○蔵書点検の実施 ○書庫整理と古書廃棄の推進(除籍300冊)	3	○図書選定会議は、部会の最終週に図書部全員で検討実施できた。 ○予定通り、夏期休業中に蔵書点検を実施できた。今回は、コロナウイルス感染拡大第2波の影響で図書委員の活動が行えなかったが、部外の先生方や部活動生の力を借りて実施することができた。 ○専門学校司書が不在となり、その仕事の一部に事務部の協力を得ながら購入図書を受け入れ整備や新刊図書案内の発行を行った。		○コロナ禍で制約が多い中で、着実に成果が上がっている。 ○専門学校司書の不在は、影響が大きいと思われるので、早期補充が望まれる。
	学校活動の記録を残す	○学校誌「おがたま」の発行	2	○卒業の日の発行を目指して、先生方の協力を得ながら進めている。 ○宮商や宮商生に関する新聞の記事を確認している。		○コロナ禍で「例年」のペースが大きく狂われ、困難が多かったものと推測される。
PTA活動の充実と相互扶助しあう環境づくり	PTA活動の活性化、緊密化を図り、学校運営を円滑にするための地盤育成	○PTA総会、学年PTA等への積極的な参加を呼びかけ、学校への理解と協力を図る。 ○数値目標:PTA総会、学年PTAへの出席率85%	3	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種活動が中止になった。 ○第2回PTA理事会の開催案内を配り、71名の出席であった。目標の85%を切ったが、出席率100%となると3密になる恐れがあることから、今後は、出席者の精選または、複数会場・複数日での分散開催なども検討したい。	3	○コロナ禍で制約の多い状況下ではやむを得ない結果ではないか。 ○コロナ禍の中、出席率の低下は致し方ない。コロナ禍中での開催と考えると十分な出席率だったのではないか。
	PTA会員の各種研修会への参加や他校訪問などによる研修の充実	○九高P連大会「宮崎大会」、PTA研修視察、県高P連県中地区研修会、母親委員会主催の研修会への参加を呼びかける。 ○数値目標 九高P連大会「宮崎大会」:40名 PTA研修視察:7名 母親委員会主催の研修会:21名	2	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県高P連県中地区研修会、県高P連県中地区母親委員会研修会PTA研修視察・母親委員会主催の学習会などが中止になった。		○コロナ禍で制約の多い状況下ではやむを得ない結果ではないか。
	宮商会館の利用促進	○部活動を中心に、宮商会館の利用を呼びかける。 ○数値目標:利用日数120日	3	○1学期の利用件数は2件であったが、夏休み以降は簿記検定作問委員会をはじめ書道部やソフトテニス部など21件、67日の利用があった。新型コロナの感染防止対策をしながら、今後も利用促進をすすめていきたい。		○コロナ禍で制約の多い状況下では、評価できる結果と思われる。
	親交会を通しての職員の福利厚生	○歓迎会や送別会だけでなく、学校行事後は、職員の慰労を兼ねるとともに英気を養うような反省会を企画・開催する。 ○数値目標:各反省会の出席率1/2以上	2	○新型コロナウイルスの中、「新しい生活様式」に適した会場での職員の反省会開催を模索したが、宮崎市内でも感染者が後を絶たず、中止せざるを得なかった。		○コロナ禍で制約の多い状況下ではやむを得ない結果ではないか。
生徒ひとり一人の人格的成長と精神的および社会的自立への支援	生徒や保護者が抱える問題や困り感の解決にむけての面談や関係調整等の支援	○生徒や保護者との面談回数や人数 ○個別の教育支援計画の作成状況 ○関係機関との連携状況 ○アンケートや心理検査の実施と結果の利用 ○いじめ対策のための取り組み状況	3	○相談室登校の生徒が数名おり、担任や保護者、SCと連携しながら心理的混乱の解消を図っている。 ○宮崎県いじめ及びスマートフォン関係のアンケートを行い、生徒の状況把握に努めた。 ○いじめ対策に対して、関係者と協力連携しながら対応することができた。 ○9月からスクールカウンセラーが来校し、8回の来校の中で数名の生徒及び保護者に専門的立場からの支援をいただき、継続利用の生徒もあつた。 ○特性がある生徒の個別の支援計画に沿ってSSTを行ったが、十分な回数の確保が必要である。 ○生徒や保護者の多様化に応じた対応の必要性を感じた。	3	○課題達成に向けて、取り組みが着実に進展している印象を受ける。 ○取り組みの進展とともに、新たな高度な課題が浮上しているが、改善に向けた継続的な取り組みが期待される。 ○SDGsの取組が多面でなされており、生徒への啓発も必要かと思う。 ○スクールカウンセラーの活用を今度も続けながら、先生と専門家とで対応していただくのが一番かと思う。生徒や保護者の多様化も理解できるので課題も多いと推察する。
	生徒が互いの個性や特性を認めあい、共に成長できるような人間関係づくりの支援	○人間関係の調整をした件数や解決件数 ○学校購入専門誌「教育相談」紹介年6回	3	○生徒の友人トラブルを解消するために、担任と協力して面談を行った。 ○職員への教育相談部報告を4回発行し、学校購入専門誌『学校教育相談』等の紹介をした。 ○新型コロナウイルス感染により各行事がなくなった影響と思われるが、生徒間トラブルや不登校傾向生徒の増加を感じた。		○コロナ禍という特殊状況下、困難な課題に着実に取り組まれている。 ○コロナ禍による閉じ籠もりに発展しない対策が必要である。 ○人間関係で悩む多くの原因はコミュニケーション不足であるかと思う。学生のうちに「ちょっとした勇氣(相手ときちんと話す力)」と「物事の本質をつかむこと」を身に付けてほしい。
	保護者及び教職員間、外部機関との情報共有や信頼関係の構築	○毎回の学年会への参加 ○保護者や生徒への通信発行年3回 ○支援検討会の実施回数 ○外部機関との連携回数	3	○学年会に毎週参加して情報共有を図った。 ○生徒対応に関する職員間相談を行い、組織的な対応に努めた。 ○生徒保護者に対する教育相談便りを3回発行し、相談窓口の周知や人権感覚の育成に努めた。 ○来年度の3年生に向けた福祉支援施設との連携を強めていきたい。		○コロナ禍という特殊状況下、困難な課題に着実に取り組まれている。 ○良い取り組みかと思う。
よりよい教育環境づくりの推進	校務処理システム等を活用し、省資源と業務の効率化、情報の共有化及び予算の効率的執行	○FAX、公文書のデジタル化を推進し、年間印刷経費の1割減を目指す。	3	○連絡にミライムを活用したが、先生方が毎日ミライムを確認するよう今後も周知に努めたい。公文書の紙ベースでの配付を限定し、印刷枚数の削減はできたが、年間目標の1割減までの削減は行えなかった。今後、GIGAスクールネットワーク事業を活用してデジタル化が進めば印刷経費削減につながるかと考える。	3	○取り組みが着実に進展している。 ○数値目標を掲げて年間印刷経費の削減に努められたのが評価できる。
	施設・設備等の管理	○環境美化部を中心とした教員との連携による安全点検の推進	3	○今年度はファースト外でも空調設備更新工事やトイレ手洗い自動水栓工事等を行うことができた。校名看板の補修や経年劣化の不具合にも随時対応を行い、今後も早期処置に努めたい。		○取り組みが着実に進展している。
	開かれた学校として、人に優しい行政サービス	○迅速丁寧な接遇で、学校に対する問い合わせ等に対応する。	3	○学校の窓口として誠意をもって対応することができているが、行事内容の情報共有が足りず、迅速に対応できない場合もあった。各部各学年行事の担当者から最新の情報を共有し、外部の問い合わせに対して失礼のないよう準備していきたい。		○課題認識が的確であり、取り組みの進展が期待される。
	公金及び準公金会計事務の適正化	○学校徴収金会計を見直し、年度末までに100%納入する。	3	○滞納者には、電話での督促を行い納入促進に努めた。特に2年生については修学旅行積立金の相殺を活用し、早期納入をはかった。		○取り組みが着実に進展している。 ○成果欄にあるとおり、計画的に遂行された様子がうかがえる。

( 関係者評価: 4・・・大変よい、3・・・よい、2・・・悪い、1・・・大変悪い )